

神戸大学附属図書館
平成29年度資料展

近代神戸の 航路をたどる 〜開港150年を迎えて〜

〔入場無料〕

平成29年

10月13日(金)〜12月19日(火)

〔会場〕 神戸大学附属図書館 社会科学系図書館 2階 展示ホール
(〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1)

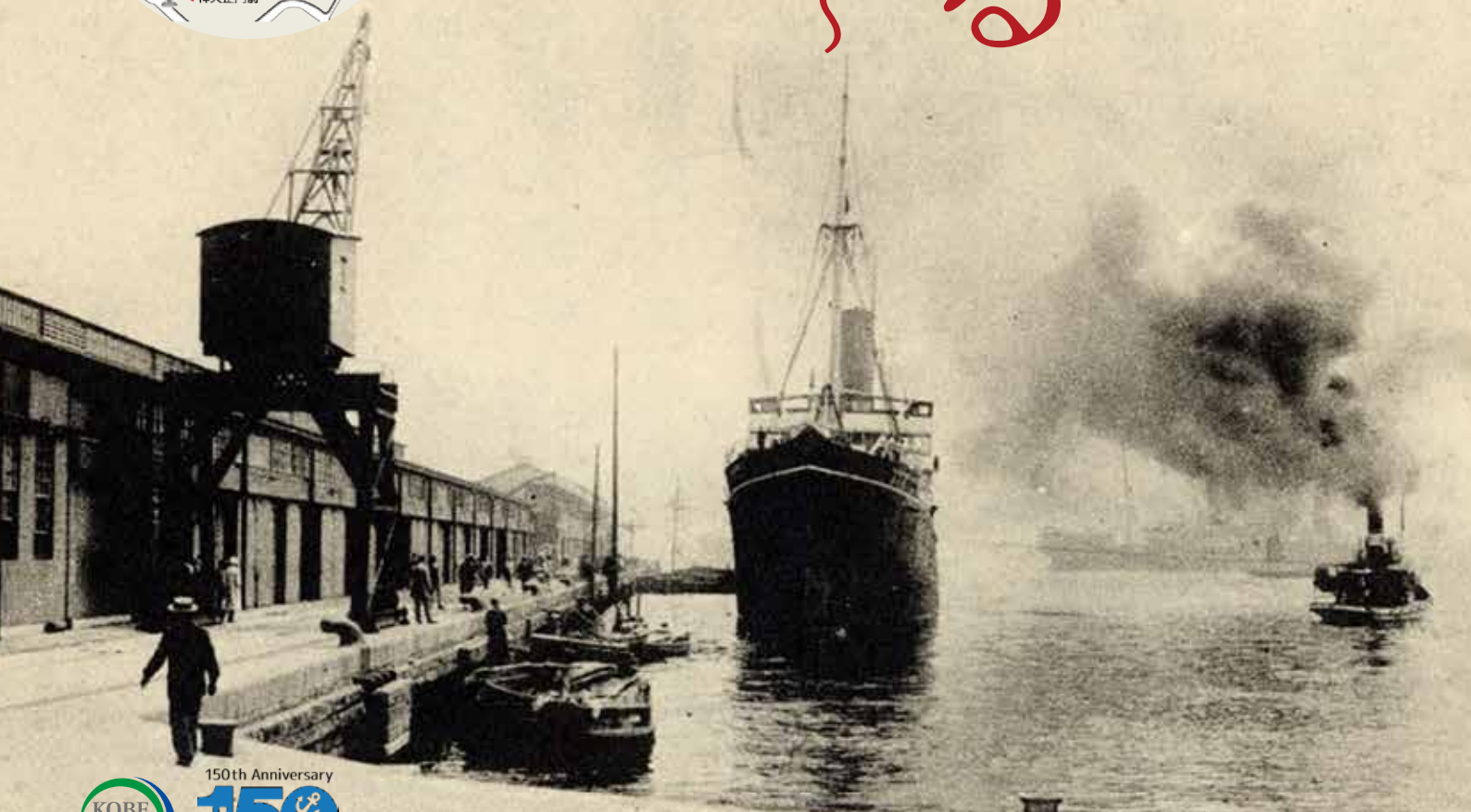
〔時間〕 月〜金 8時45分〜21時30分
土日・祝 10時〜19時(ただし11月3日は休館)

〔交通〕 阪神「御影」・JR「六甲道」・阪急「六甲」
各駅から、市バス36系統「神大正門前」下車
キャンパス内を北へ徒歩約5分

〔お問合せ〕 神戸大学附属図書館 情報リテラシー係

Tel: 078-8003-5313

E-mail: literacy@lib.kobe-u.ac.jp



背景画像：「春日丸第一突堤離陸の状況」
神戸市港湾部『神戸港大観』1923(大正12)年

近代神戸の航路をたどる

～開港150年を迎えて～

神戸大学は、教育・研究とならぶ第三の使命として、地域・社会との連携協力にも力を注いでいます。附属図書館においても、所蔵する貴重な資料を多くの皆様にご覧いただきたいと考え、平成16年度から資料展示活動をはじめ、本年で14年目となりました。

本年1月1日、神戸は開港150年を迎えました。記念事業として様々なイベントが市内各所で行われていますが、附属図書館でもそれに因んだ資料展を開催します。当館を代表する資料コレクションである「住田文庫」「神戸開港文書」をはじめとした所蔵資料を通し、またこれらを電子化して公開・発信するデジタルアーカイブの情報も織り交ぜ、開港を機とした近代神戸の歩みを紹介します。神戸近代史の一端に、そして図書館の所蔵資料に気軽に触れる機会となれば幸いです。多数のご来場をお待ちしております。



<展示概要>

1. 神戸、開港ス

1863年1月1日と定められた兵庫の開港は、5年後に神戸にて実現します。安政の五か国条約や海軍神戸操練所、そして外国人居留地の成立と暮らしなど、開港の契機と実際の一端を紹介します。

2. 展開する神戸港

天然の良港であった神戸港は、開港以来順調に国の主要港の一つとしてその存在感を高めてきました。発展著しかった明治・大正時代の神戸港を、貿易・築港工事・造船業の3つの視点から概観します。

3. 開港で広まった西洋文化

洋装や洋食など、開港をきっかけにもたらされた西洋文化が神戸でどのように広まっていったのか。当時の人々の暮らしの変化と、現在まで続く身近な文化を紹介します。

4. 神戸の歴史を知るために

開港から150年の間に神戸のまちには様々なできごとや変化がありました。その歩みを年表と画像で振り返るとともに、当時の資料について調べられる神戸大学デジタルアーカイブについても紹介します。



「神戸大学附属図書館 デジタルアーカイブ」について

本学の所蔵資料などの知的資産や教育・研究成果を電子化して、インターネットを通じて広く世界に発信するものです。今回の資料展の内容と関わりが深い主なコンテンツとしては次のものがあります。



神戸大学附属図書館 デジタルアーカイブ 検索

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/da/>

150th Anniversary PORT OF KOBE 教育文化週間

本資料展は、下記のHPや企画に登録されています。
・神戸開港150年HPおすすめイベント[<http://www.kobeport150.jp/>]
・文部科学省「教育・文化週間(11月1日～7日)」関連行事